

旧フロントオープンからの買替えについては、別売の収納キャビネットや配管工事が
いらぬ「ディープタイプ」を推奨しています。

この機種をベースに
説明します

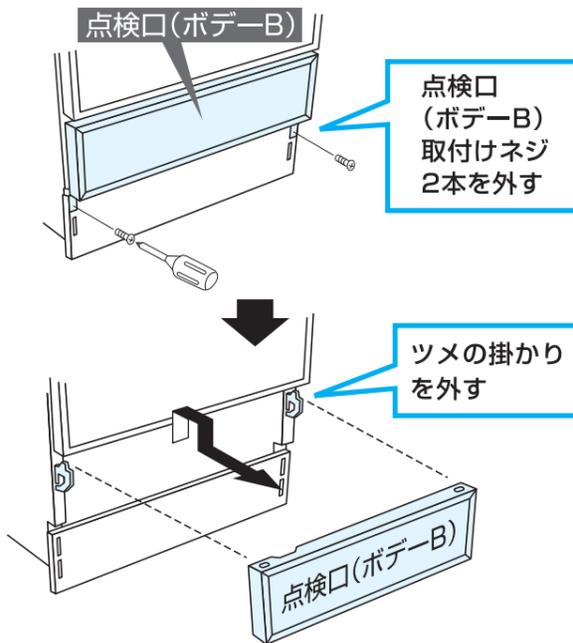
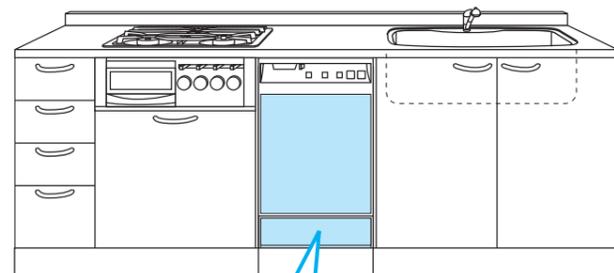
フロントオープン	ディープタイプ	
NP-5500/5600シリーズ NP-5700/5800シリーズ NP-45A/NP-U45Bシリーズ	キッチン奥行600mmの場合	NP-45MC6T
	キッチン奥行650mm以上の場合	NP-45MD9SP/45MD9S/ 45VD9S/45RD9S・9K

1 給・排水の取り外し

点検口を開放し、給・排水ホースを外します

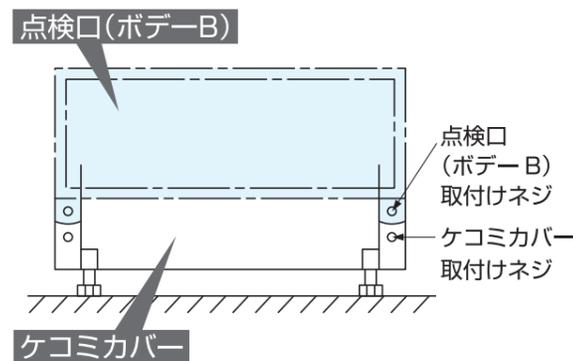
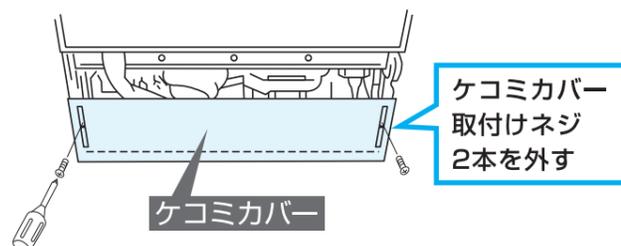
1 点検口(ポデーB)の取り外し

まず周辺を片付け、床を傷つけないように養生します。
点検口(ポデーB)取付けネジ(2本)を外すと、下部が開放されます。上に持ち上げるようにして、上部のツメに掛かっている部分を外し、手前に引いてポデーBを取り外します。



2 ケコミカバーの取り外し

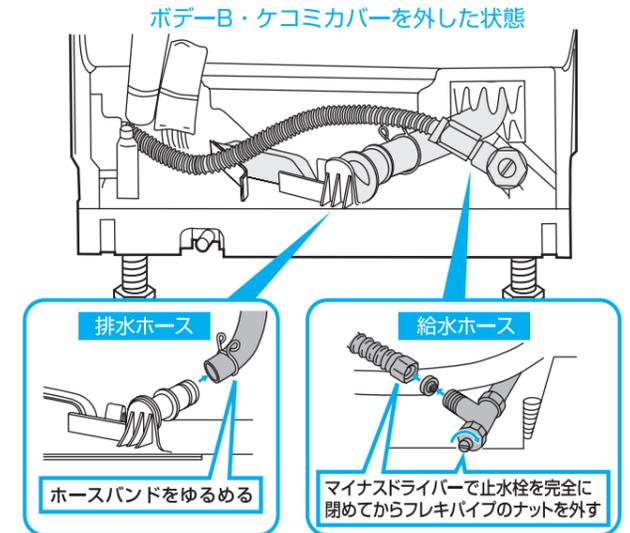
ケコミカバー取付けネジ(2本)を外して、ケコミカバーを取り外します。



3 給・排水の取り外し

点検口(ポデーB)・ケコミカバーを外すと、台枠内の給・排水部分が現れます。給水配管の止水栓を完全に閉めてから、給・排水ホースを配管から外します。

ご注意 ホース内部の残水で床が濡れないように、受け皿やウエスをあらかじめ用意してください。



2 現状機器の取り外し・引き抜き

古いビルトイン食洗機を撤去します

1 現状機器の引き抜き

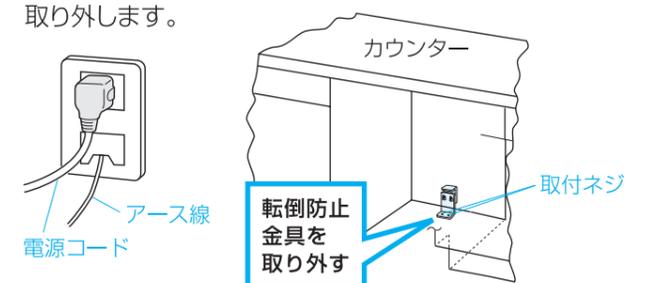
本体を持って水平方向に引っ張り、食洗機本体を引き抜きます。

ご注意 調整脚を回して高さを下げないと引き出せない場合があります。



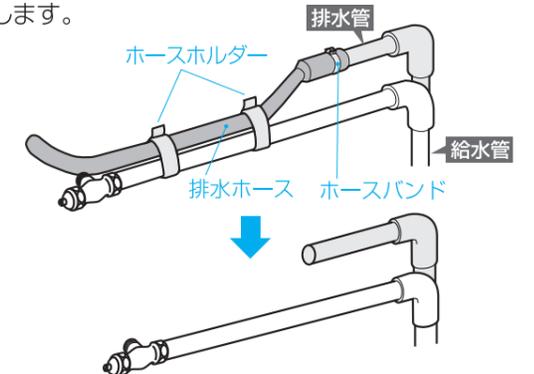
2 電源コード、アース線の取り外し

食洗機本体から出ている電源コード、アース線を外します。また、床面に取り付けられている転倒防止金具を取り外します。



3 排水ホースの取り外し

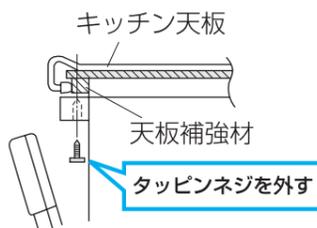
ホースバンドとホースホルダーを外して、排水ホースを取り外します。



CHECK!

引き抜きにくいときは、
ここを確認!

食洗機本体がワークトップの裏側にネジ止めされている場合があります。



*上記以外で取り外しにくい場合は、長年の設置により調整脚が床面に固着している可能性があります。強く引けば外れます。

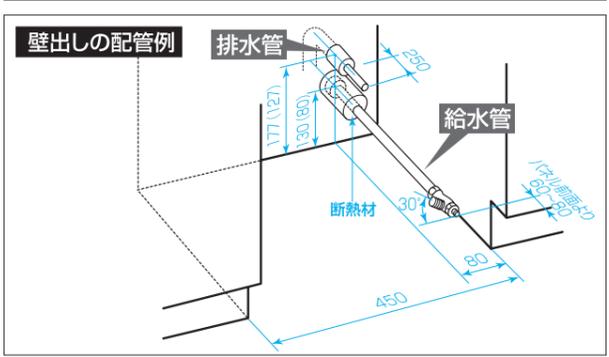
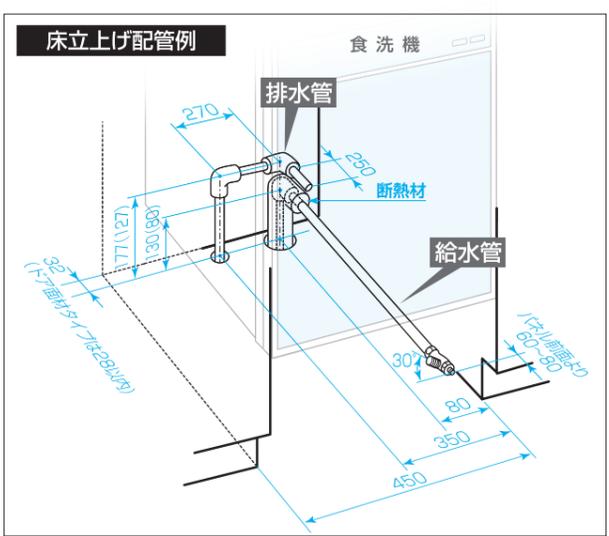
●給・排水の配管パターンは建物の条件によって異なります。次ページをご参照ください。

3 給・排水と電源の確認

現状の給・排水配管と電源を確認します

1 給・排水配管工事の確認

旧フロントオープンの標準的な配管施工は、下図のようになっています。いずれかに該当する場合は、変更工事の必要はありません。そのままの状態、入替機器の給・排水ホースと接続できます。

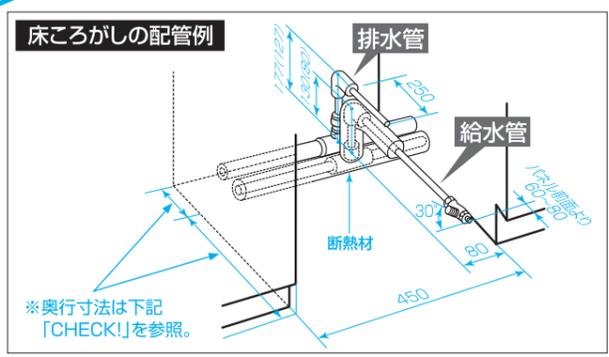


CHECK!

■ 給水管の断熱材をチェック!

一般的に梅雨期などの高湿度なとき、給水側の配管が結露する恐れがあります。食洗機の機種に関係なく、給水側には断熱材が必要です。また、冬季凍結の恐れがある場合は、必ず保温配管工事をお願いします。

この4パターンなら 変更工事不要!

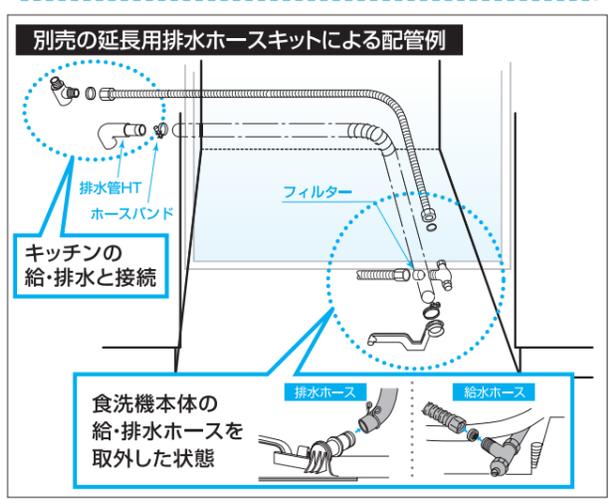


CHECK!

■ ディープタイプ台枠内の配管用空間について

	NP-45MC6T	MC6T以外のディープタイプ
A	ドア前面から台枠の後脚奥側までの距離(奥行) 495mm 本体背面まで約88mmの空間があります。	509mm 本体背面まで約111mmの空間があります。
B	台枠後脚間の距離(幅)	364mm
C	床面から台枠の上限までの距離(高さ)	157~257mm キッチン高さ800~900mmに対応します。

(イラストはNP-45MC6T)



2 100V電源への変更

旧フロントオープンが200V機種の場合、電源変更工事が必要です。「買替え機種対応表」をご覧ください。

4 入替機器の準備

台枠やコード類などをセッティングします

1 本体と付属品の確認

梱包を開き、食洗機本体と同梱付属品を確認します。本体、かごのテープやダンボールをすべて取り外してください。



▲一人でも作業できますが、食洗機本体を運ぶときなどは、二人の方が効率的に行えます。

■ 同梱付属品一覧

本体をしっかり支えるために

1 台枠(脚ユニット) (調整脚付き) (左右各1個)

2 前つぎ板 (調整ネジ付き) (1個)

3 後つぎ板(1個)

4 転倒防止金具(2個)

5 木ネジ(φ4×30mm) ● ①横連結用(4本)

6 ネジ⊕(φ4×14mm) ● ②・③・④取付用(6本)

7 調整脚固定金具(各1個)

8 ネジ⊕(φ5×15mm) ● ⑦取付用(5本)

9 前ズレ防止金具(1個)

10 ネジ⊖(φ4×14mm) ● ⑨取付用(2本)

下部スペースの化粧用に

11 ボデー-B<点検口>(1個)

12 ボデーシール(1枚)

13 ケコミカバー(1枚)

14 ネジ⊖長(φ4×20mm) ● ⑬取付用(2本)

15 フィラー(1個)

※タイプにより形状が異なる場合があります。

給・排水管のスムーズな接続のために

16 エルボ(1個)

17 パッキン(1個)

18 ホースジョイント(1個)

19 ホースバンド⊕(2本)

20 ホースバンド⊖(1個)

2 台枠の組み立て～設置

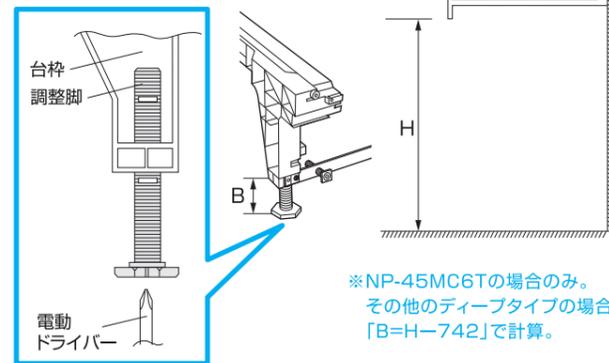
*ネジの締め付けは電動ドライバーなどを使わず、手締めしてください。

- 1) 台枠①に前つぎ板②、後つぎ板③、転倒防止金具④をそれぞれネジ⑥(各2本)で取り付けます。
- 2) キッチンの高さに合わせて、台枠の調整脚4本の高さを電動ドライバーで調整します。

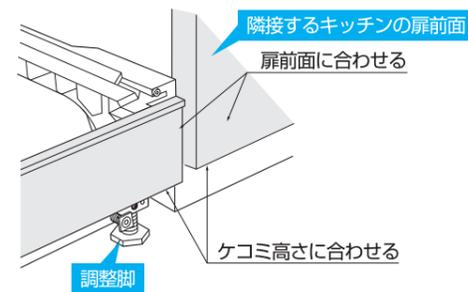
- ①カウンター下面より設置面までの高さ「H」を測定
- ②調整脚の出代「B」を次の式で求めます

$$B = H - 747 \text{ (mm)}$$

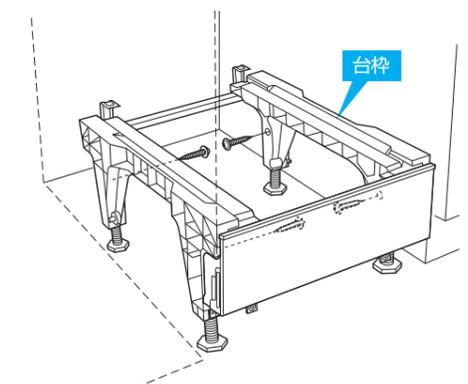
キッチンカウンター



- 3) 台枠に点検口(ポデーB)⑩を取り付け、隣接するキャビネットの扉前面に合うよう位置決めし、ケコミ高さに合わせて調整脚を微調整します。



- 4) キャビネットに木ネジ⑤(4本)で台枠を固定します。隣接キャビネット側板の材質や構造によって固定位置が異なりますので、ご注意ください。

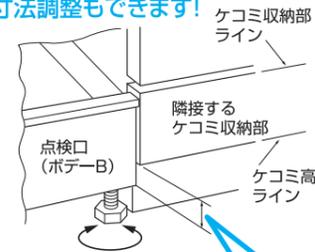


- 5) 片側に加熱機器などがあり、木ネジが使えない場合は、調整脚固定金具⑦を取り付けます。
- 6) 点検口(ポデーB)をいったん取り外します。

MEMO

■点検口(ポデーB)の寸法調整もできます!

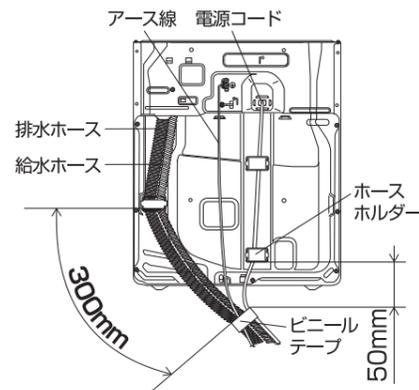
キッチンにケコミ収納部がある場合は、そのラインと上端を合わせるために、ポデーBをカットして寸法を調整できます。



この高さの差を測定し、その寸法だけポデーBをカット

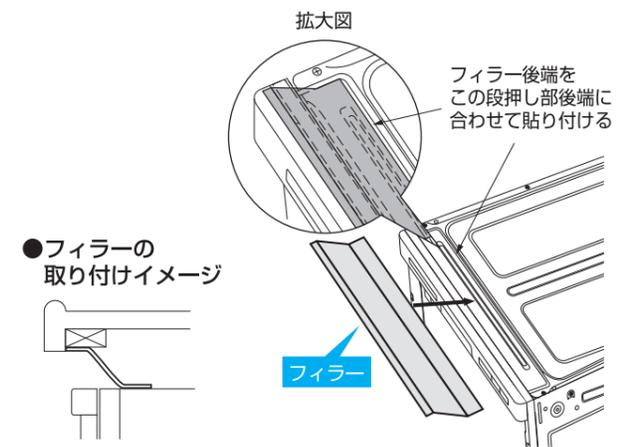
3 コード類の束ね

- 1) 本体背面のホースやコード類の留め具をすべて外します。
- 2) 本体据付時に作業しやすいよう、ホースやコード類をホースホルダーの下の位置にビニールテープで束ねます。



4 フィラーの取り付け

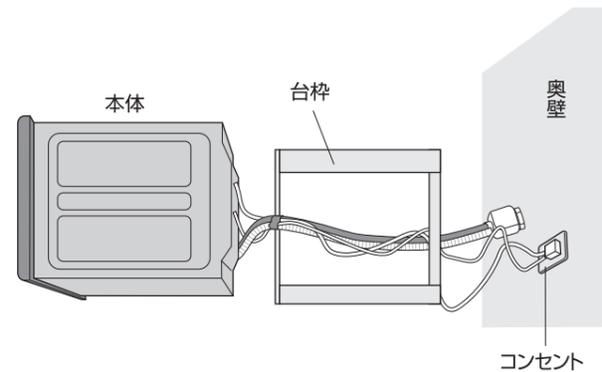
- 1) フィラー⑮をミシン目に合わせて折り曲げます。
- 2) 折り曲げたフィラーを本体天面の段押し部に貼り付けます。このとき左右均等になるようにしてください。



5 電源コード・アース線の接続

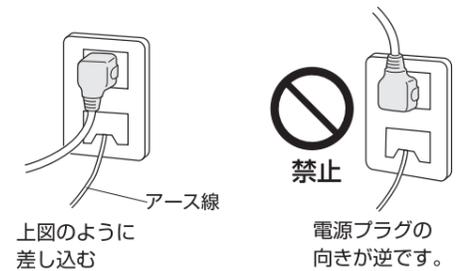
*電源コード・アース線は台枠の内側から通して、コンセント及びアースターミナルに接続してください。

- 1) 電圧が100Vであることを確認してから、埋込みコンセントに電源プラグを差し込みます。
- 2) アース線をアースターミナルに接続します。



CHECK!

- ①200V電源に差し込むと、瞬時に故障します。
- ②電源プラグの向きにご確認ください。



- ③ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には、絶対に接続しないでください。

警告

電源プラグはコードが下方向に出るよう、コンセントに奥まで確実に差し込む。

上方向に出るとプラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火するおそれがあります。

警告

アースを確実に取り付ける。

故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

アース線接続

- アース工事は必ず販売店に依頼してください。

警告

電源コードを切断したり、屋内配線ケーブルと直結したりしない。

感電・漏電や火災の原因となります。

コンセントを床面にころがして、電源プラグを差し込み使用しない。

感電・漏電や火災の原因となります。

●据付けに際しては、商品同梱の取付設置説明書をご参照ください。

5 入替機器のビルトイン

台枠の上をすべらせながら押し込みます

1 本体の据付けとホースジョイントの接続

床立上げ/壁出し/床こしがし配管の場合(42ページ参照)

1) 本体の後脚を台枠に乗せ、すべらせながら押し込みます。

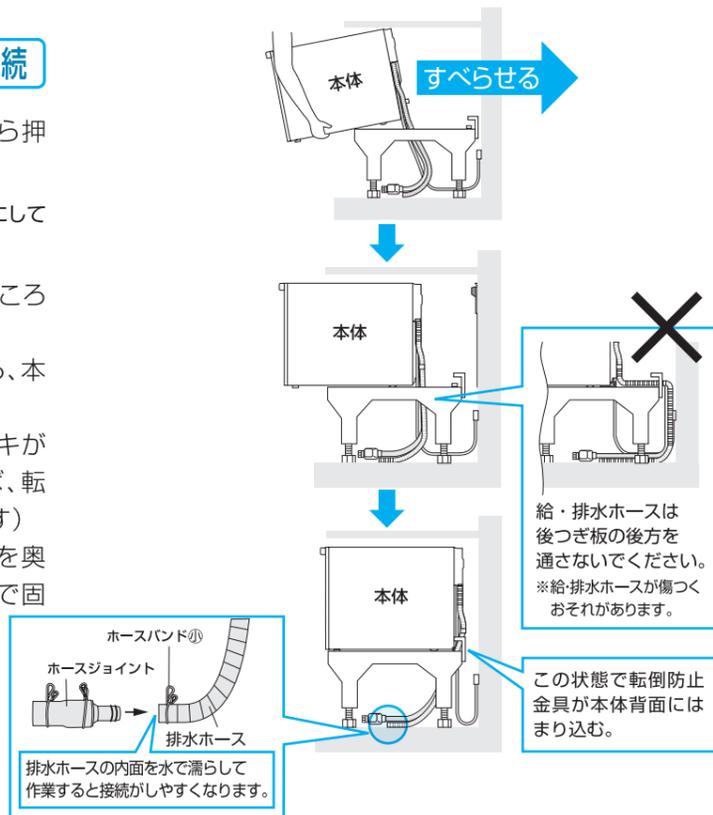
ご注意 本体の下面を手で支え、ドアを持たないようにしてください。

2) 本体奥行の約3分の2まで押し込んだところでいったん止めます。

3) 給・排水ホースを手前側に引き寄せてから、本体を奥まで押し込みます。

4) ドアを開けて上から少し力を加え、ガタツキがないか確認します。(ガタツキがなければ、転倒防止金具が確実に本体にかかっています)

5) 排水ホースの先端にホースジョイント⑱を奥いっぱいまで差し込み、ホースバンド⑳㉑で固定します。



1) 本体の後脚を台枠に乗せ、すべらせながら押し込みます。

ご注意 本体の下面を手で支え、ドアを持たないようにしてください。

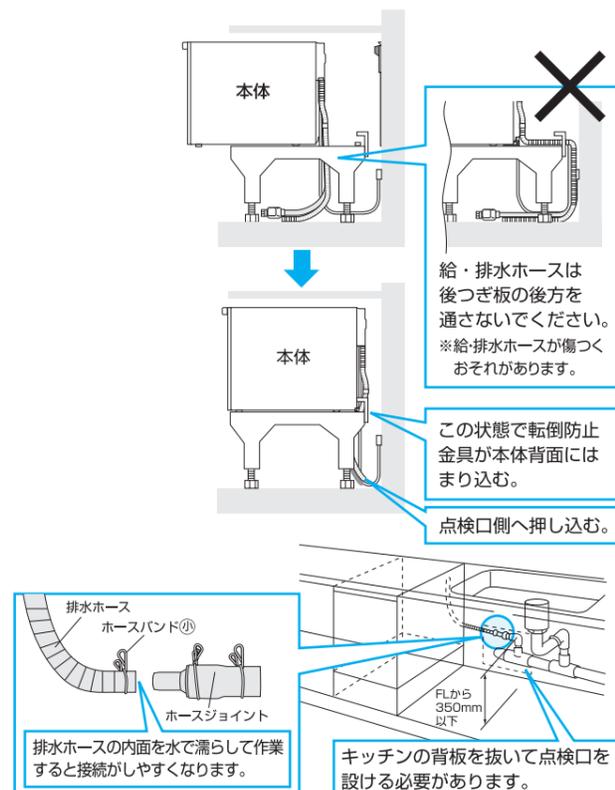
2) 本体奥行の約3分の2まで押し込んだところでいったん止めます。

3) 給・排水ホースを点検口側に押し込みます。

4) ドアを開けて上から少し力を加え、ガタツキがないか確認します。(ガタツキがなければ、転倒防止金具が確実に本体にかかっています)

5) 点検口側から給・排水ホースを引き寄せます。

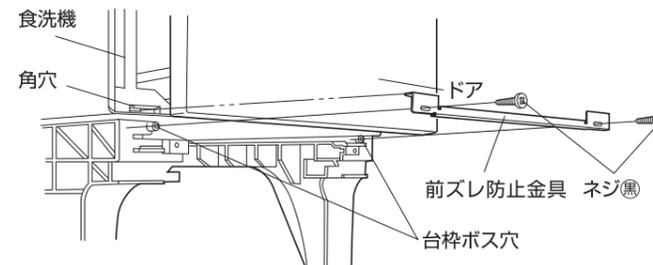
6) 排水ホースの先端にホースジョイント⑱を奥いっぱいまで差し込み、ホースバンド⑳㉑で固定します。



別売の延長用排水ホースキットによる配管の場合(42ページ参照)

2 前ズレ防止金具の取り付け

1) ドアを少し引き出し、前ズレ防止金具⑨をネジ⑩(2本)で台枠に取り付けます。

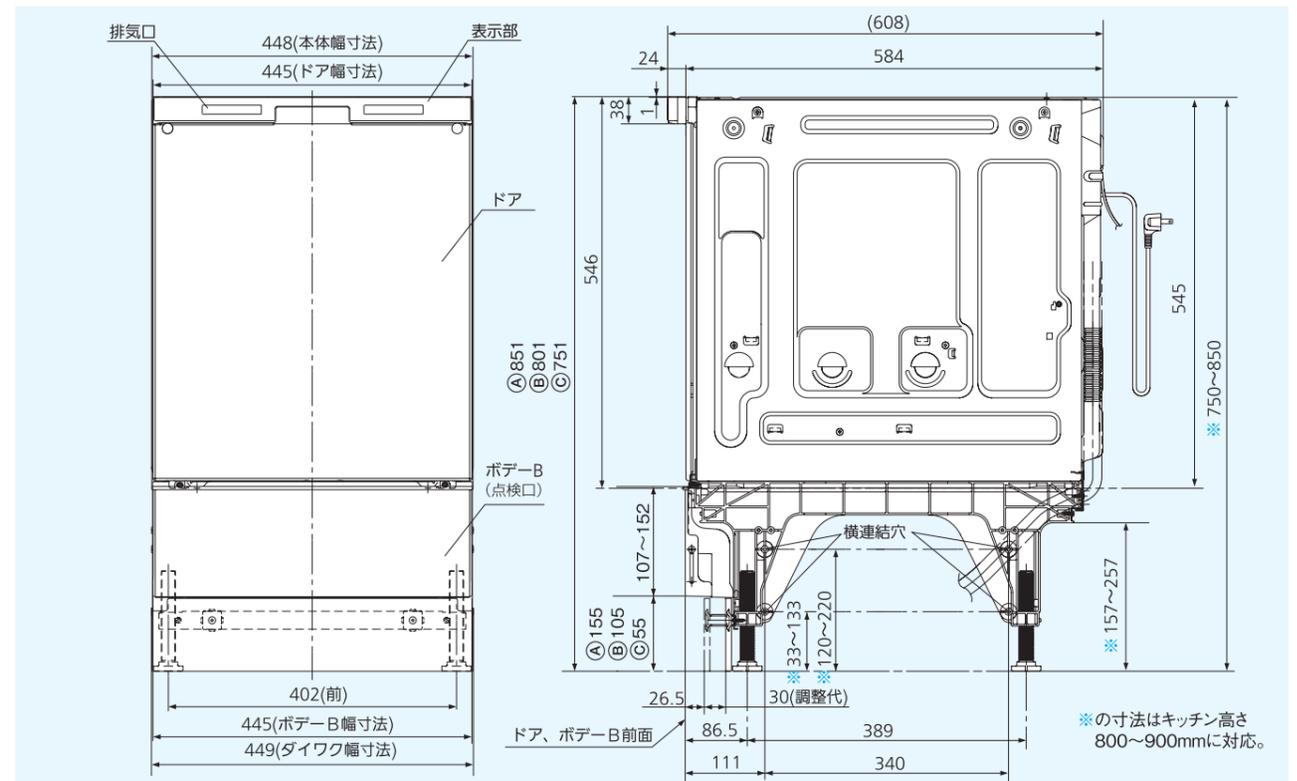


注意

必ず前ズレ防止金具を取り付ける。
ドアの開閉などにより製品が前へ動き、台枠より落下し、けがをするおそれがあります。

■ 設置寸法図(NP-45MC6T)

キッチンの高さによって、設置の高さ寸法も異なります



CHECK!

食洗機の前後位置を確認します

キッチン奥行60cm対応機種NP-45MC6Tは化粧パネル一体型のため、ドア前面が隣接するキッチンの扉前面とそろっているのが正しい状態です。このとき、操作部はキッチン扉よりも少し出っ張ります。



● 設置後、本機種の特性上、操作部がワークトップの前垂れ面よりも突出する場合があります。あらかじめご了承ください。

警告

ビルトインのとき電源コード、アース線、排水ホース、給水ホースに傷をつけない。

感電・漏電・火災や水もれの原因となります。



電源コードを転倒防止金具や本体の底面や脚との間に挟み込まない。

感電・漏電や火災の原因となります。



● 据付けに際しては、商品同梱の取付設置説明書をご参照ください。

6 給・排水管との接続

給水ホース、排水ホースを接続します

1 給水ホースの接続

*ナットの締め付けには市販の工具(スパナなど)を使用してください。ナットを締め付けすぎると、水もれの原因になります。

- 1) 既設のアンクル型止水栓にフィルター(給水ホースにセットされています)を入れます。このとき、必ずフィルターのふくらんだ方が止水栓側にくるようセットしてください。
- 2) エルボ^⑩を使って、給水ホースを確実に接続します。

2 排水ホースの接続

*排水ホースは給水管や給水ホースの上を通るようにしてください。

- 1) 排水管にホースジョイント^⑪を接続し、ホースバンド^⑫でとめます。このとき、ホースジョイントの内側を水で濡らすと作業がしやすくなります。
- 2) 排水ホースに折れやねじれがないことを確認します。

	床立上げ/壁出し/床ころがし配管の場合	別売の延長用排水ホースキットによる配管の場合
給湯(給水)接続部		
排水管との接続部		
給排水ホース接続完成図 (イメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ●排水ホースは給湯(給水)管や給水ホースの上を通るようにしてください。 	

- ホースバンドが正しく取り付けられているか確認してください。
- 排水ホースに折れや、ねじれ、たるみがないことを確認してください。

注意

給水ホースおよび排水ホースは切断しない



水もれの原因となります。

給水ホースを床面に落下させない



給水ホースの電磁弁は重量物です。落下させるとケガをしたり床面がキズ付くおそれがあります。

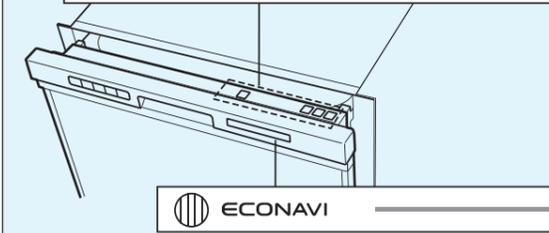
7 試運転・試運転後の作業

運転音や水もれなどをチェックします

1 試運転

- 1) 電源が入ること、給湯(給水)の開栓を確認のうえ、以下の手順で試運転を行います。(約3分で終了します)

1 止水栓を開く。



2 「一時停止/スタート」ボタンと「コース」ボタンを押しながら「電源」ボタンを押す。

3 ボタンから手を離し、3秒以内に「コース」ボタンを押す。

4 ドアを閉じると、試運転が開始。

試運転中の表示(点灯)

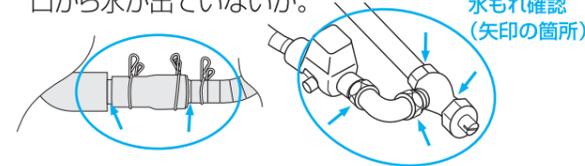


5 約3分間で終了し、自動的に電源が切れ、表示が消灯します。

※ドアを閉じない場合、「ピピピピ」と繰り返し音が鳴りますが、ドアを閉じると試運転が開始します。

- 2) 次の項目を確認します。

- バシャバシャという噴射音がするか。
- 給・排水の接続部や止水栓などから水もれがないか。
- 運転終了時、ブザーが鳴って、電源スイッチが「切」になるか。
- 庫内の水が排水されているか。
- 電源スイッチが「切」の状態、洗浄タンク内の給水口から水が出ていないか。



注意

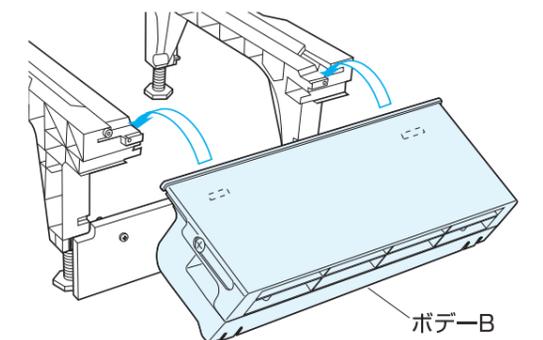
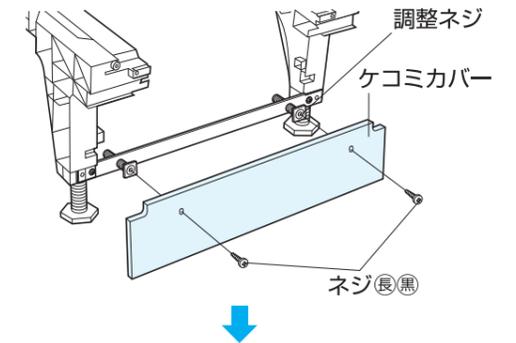
凍結のおそれのある所へ設置するときは必ず水抜き作業を行った後、止水栓を閉める。



止水栓を閉めないと凍結した際に、給水弁を破損して水漏れするおそれがあります。

2 試運転後の作業

- 1) ケコミカバー^⑬をカッターなどで切断し、高さ寸法を調整したうえで取り付けます。
- 2) 再度、ボデーBを取り付けます。



●据付けに際しては、商品同梱の取付設置説明書をご参照ください。